

令和5・6年度 特別支援学校 授業づくりプロジェクトの概要

目的

教科等横断的な視点に立った資質・能力のうち、学習の基盤となる資質・能力の言語能力の育成を図るため、要となる国語科（知的障害教育の国語）を対象として、授業づくりの要点を明らかにするとともに、ロールモデルとなる人材を育成する。

授業づくりの要点を明らかにする



ロールモデルとなる人材を育成する。



設定理由



第四次秋田県特別支援教総整備計画
柱Ⅱ特別支援学校における教育の充実
重点施策「必要な資質・能力を育む授業改善」



特別支援学校小学部・中学部学習指導要領
第1章第3節「教育課程の編成」
言語能力の育成

- ・学習活動を支える上で、言葉の果たす役割は大きい
- ・言語能力の育成に向けた視点による授業改善
- ・ロールモデルとなる人材の育成
- ・言葉を直接の学習対象とする国語科を対象とする

主な取組

令和5年度

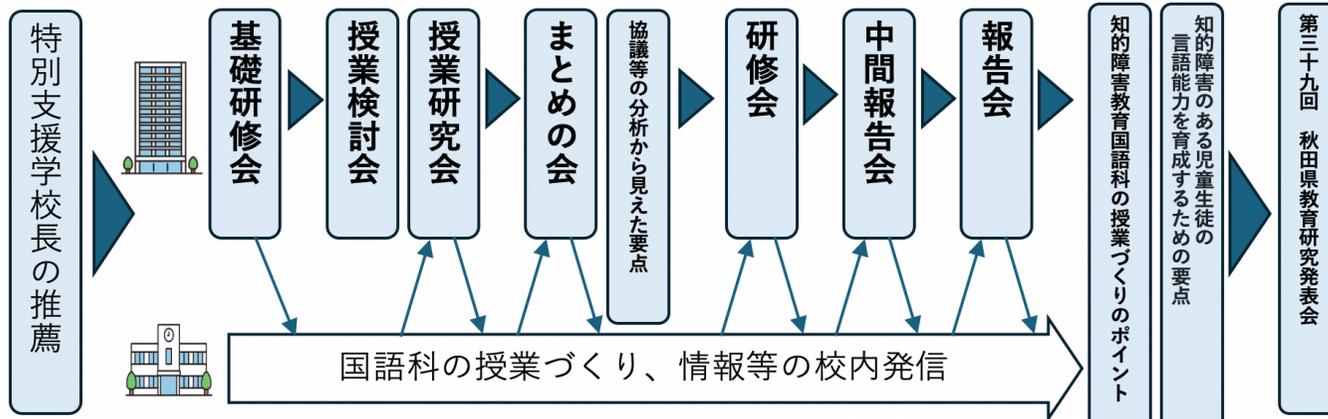
趣旨

言語能力の育成に向けて国語科の授業づくりについての理解を深め、国語科の授業づくりの要点を整理する。

令和6年度

趣旨

知的障害教育における国語科の授業づくりの理解を深め、各校においてプロジェクトの成果を発信する。



県内特別支援学校から推薦された教諭各1名（計15名）が参集し、研修や協議をすることと、各校においても国語科の授業づくりや校内発信することを両輪にし実践した。

成果

①知的障害教育国語科の授業づくりの要点



- ・授業づくりの4つの要点や授業づくりのポイントを整理した。担当教員同士の対話の中で、互いの価値観に触れ、新たな気づきを得るなどの過程を通して、要点やポイントを整理した。

②ロールモデルとなる人材の育成



- ・担当教諭の変容として、
→「言葉や言語環境の整備への意識」
→「授業づくりへの向き合い方」
が挙げられた。これらの変容の基、各校において「授業提示」「同僚との協働的な授業づくり」「情報提供」等を行った。

今後に向けて

①教科等横断的な視点からの言語能力の育成

- ・児童生徒が安心して表現できる関係性と構築し、用いる言葉への意識を高めた豊かな言語環境を整えながら、国語科を要とし、他の学習形態においても言語能力の育成を図る授業づくりや学級経営の充実を図る。

②多様な学びの場における活用

- ・多様な学びの場における特別な支援を必要とする児童生徒に対する授業づくりの手掛かりとして活用する。